



平敷屋の概要

H E S H I K I Y A



字平敷屋は、勝連半島の東端に位置し、海拔約50m~80mの地点にあります。尚貞王代の延宝4年(1676年)勝連間切から与那城間切が分離し、平敷屋村に勝連間切の番所が置かれ、以来明治43年(1910年)字平安名に移転するまで、間切行政の中心地として繁栄していました。「・・・村の高さや平敷屋村・・・」、「・・・島崎や平敷屋、安勢理、鏡辺・・・」と昔詠み謡われたように、平敷屋は勝連半島の先端で東南部一帯(旧集落の小字平敷屋のほか、後原、美津久、平原、嘉真舎、美栄間、陣那、溝原、名護原の一部)の高台にあります。

トラバーチン

平敷屋で採掘されている石灰岩「トラバーチン」は、沖縄では他に宮古島でしか採れないといわれている程の貴重な産物です。もとはといえば、水に溶け込んでいる炭酸カルシウムが沈殿してできたもので、緻密・硬質という性質上、装飾用石材として加工されます。おもに、墓石やシーサー等に加工されており、国会議事堂の正面玄関の柱にも使用されているほど、高く評価されています。



INFORMATION

勝連町の位置

沖縄本島中部の東海岸、中城湾と金武湾の間にある勝連半島の南西半分と浜比嘉島、浮原島、南浮原島、津堅島からなります。



勝連町の歴史

先史時代の遺跡は51カ所確認されています。遺跡は半島側では南側に多く、津堅島では海岸部に点在、浜比嘉島には洞穴内遺跡が多くあります。

勝連町10代目・阿麻和利の時代になると勝連は最盛期を迎えます。徳之島や奄美大島、さらに中国や朝鮮との交流も盛んに行われていましたが、中城城主・護佐丸と争いがおこり、後に中山軍に滅ぼされました。勝連間切は明治41年に市町村制の施行で勝連村となり、1980年に町制に移行しました。



沖縄県勝連町教育委員会

〒904-2392 沖縄県勝連町字平安名3047

TEL.(098)978-2227

このリーフレットは、対米請求権事業により作成しました。

きむたかの文化財シリーズ 5



平敷屋

HESHIKIYA



沖縄県勝連町教育委員会

哀そのはた打かへす
(この暑さの中で働いている)
せなかより
(農夫の背中から)
ながるるあせや
(滝のように汗が流れ落ちる姿が)
流つしらなみ
(気の毒である)

※この歌は朝敏が、働く農民に労りの心が伺えることから平敷屋タキノーの歌碑に選定されました。



町指定文化財第1号

『平敷屋タキノー』

字平敷屋の南端に所在する標高約70mの小さな丘陵です。1727年脇地頭としてこの地に配された平敷屋朝敏は、水不足に悩む農民のために溜池を掘削し、この時に掘り出した土を盛り上げて築いたのが『平敷屋タキノー』です。近年住宅化が進み、池も大部分が改修・縮小され、平敷屋タキノーも公園化事業の中で整備され、いくらか昔と趣を異にしたが、勝連半島を取り巻く太平洋を眺望できる景勝地にあり、朝敏の和歌の記念碑もあります。

また、御嶽やヒータティムイも隣接することから、村落史研究の上から重要な史跡です。

平敷屋朝敏(へしきや ちょうびん)

平敷屋朝敏は、1700年首里金城村に生まれ、1734年に34歳の若さで安謝港において「八付」にされました。朝敏は薩摩支配下における苦難の時代に、士族という身分におごることなく、農民をはじめとした弱い立場の人たちに温かい眼差しを向けることのできた沖縄近世随一の和文学者です。彼の作品には「貧家記」、「手水の縁」があります。